

4 実践事例


(1) Hくん楽しいね

～H男の楽しい思いをY子に伝えることにより自分も楽しいと感ずるようになったY子～
 <H男の姿>

明朗で明るい。動きのある遊びが好きで好奇心も旺盛であるが、やや落ち着きのない時がある。注意を受けることも多いが、学級の中では比較的皆に頼りにされている存在で人気がある。Y子が唯一、学級の中で「Hくん、Hくん」と呼んでくれるのでうれしと感じている。そのためY子への思いや関心は他の子に比べると強い。日常生活の中で、Y子に積極的に声をかけている。しかし、その時のY子の気分で嫌がられることも多いが、自分から気付いてY子にやさしく声をかけている姿がある。

①「Yちゃん、出た出た。」(プールでの出来事)

※二重枠は指導・支援

Y子の姿	H男の姿
○大プールでは落ち着かない。なんとなく顔面に水しぶきがかかるのを恐れている。	
ペットボトルは浮きにもなるので、いつも用意しておく	
○一人でゆらゆらと遊んでいる。	○水がシャワーのように出てくる穴の開いたペットボトルを持ってくる。
	○Y子の前で水を入れ、ペットボトルの水量が減ると息を吹き入れる。水が勢いよく出ると、その様子を目の前のY子に見せて「面白いでしょ」と声をかける
	二人の関わりが始まる
○Y子は「もう一回やって。もう一回やって」と繰り返し大喜び。	○反応して喜ぶY子の姿に満足気 「ほら、こうやるんだよ」 「どう？おもしろい？」
同じ体験をすることによって他の子に心寄せるY子と自信を持ち出したH男	
Y子にも同じ事をやらせようとする	
○やり方が分からない。ボトルの口をくわえている。	○さっとY子にペットボトルを渡す。 ○「フーってふくの。飲んじゃだめだよ。」一生懸命やり方を説明する。
水の出る楽しさに興味を持ち続けるY子と、ずっと関わり合うH男のやさしさ	
見守る保育者	
○一度息が入る。水が飛び出る。「ワー、出た！出た！」大喜び	○「Yちゃん、うまい！うまい！」「すごいよ」
できた喜びをお互いに分かち合う	
○「キャー、キャー」	○「よしぼくも持ってきてやるぞ。」隣で一緒に楽しむ。「Yちゃん出た。出た。」
一緒にやる楽しさを味わう	

②「H男くんいる。H男くんいる。」(運動会での出来事)

<p>(最初椅子に座っての競技観戦) ○Y子はD男やN子、保育者と話しをしていたがだんだん飽きてくる。 ○立ったり、座ったり。</p>	
<p>Y子にH男を意識付けようと言葉がけを行う。 「Yさん、H男くんもお座りしているね。」 「H男くんも同じだね。」</p>	
<p>○「あっ！H男くんいる、H男くんいる。」 笑みを浮かべて大喜び</p>	<p>(保育者の声が聞こえたH男) ○Y子を振り返って「Yちゃん、見える？」</p>
<p>二人の温かな人間関係が見られる</p>	
<p>○前を向いたH男の肩をたたいたり、気を引こうとする。 ○最後まで椅子に座って笑顔で競技を参観する。</p>	<p>○呼ばれたり、肩をたたかれるたびに笑顔で振り返る。 ○「Yちゃん」と、何度もY子を振り返って呼び続ける</p>
<p>お互いの気持ちを認め合いより深い人間関係を深めていくY子とH男 ありのままのY子を受け入れ、Y子を理解できていったH男</p>	

(2) Yちゃんもいっぱい描けるね

～Y子と一緒に絵を描く中でY子の姿に学び、

Y子を見方を変えていった学級の子どもたち～

<学級の子どもたちの姿>

どういう時にY子が嫌がるのか、どういう時にY子が喜ぶのか理解してきている学級の子どもたち。戸惑いながらも、Y子のペースに合わせ、優しく声をかけ、Y子の気持ちに添いながら興味を持ってそうなものを見せたり持ってきたりして、それを介して関わろうとする子どもたちの姿がある。



Y子は絵を描くことが好きである。ただ、Y子が描きたくなる時というのは、友だちも描きたいというわけではなく、他の活動中であつたりもする。絵に限らず、Y子と学級の子どもたちが同じ願いで長い時間関わることは難しい。しかし、Y子の好きな絵を友だちと一緒に描くということも多く仕組んでいけば、Y子への理解やお互いの関わりがいつそう深まり、仲間意識が高まっていくと考えた。

Y子の姿	学級の子どもたちの姿	保育者の援助・受け止め
Y子も含めた学級全体で絵を描く保育の場の設定		
<p>○大きな紙や友達を見ていると「Yもかきかきする」と言い出し、みんなをまねてクレヨンを取りに行こうとする。</p>	<p>○保育者が広げた大きな紙を見て「ワー」と歓声を上げ、クレヨンを取りに行く。 ○Y子の引き出しを開けてやり、クレヨンを取り出しやすいようにしてくれるN子 ○クレヨンを手にしたY子を見て、「Yちゃんここ、ここ」と声をかける同じグループのK子。</p>	<p>○Y子も、学級の子どもたちもより興味を持って取り組めるのではないかと思い、大きな紙を用意したことが、子どもたちを喜ばせ、その姿を見てY子も友だちをまねたいと思ってくれたようだ。</p>
K子を含め仲間意識が育ちつつある学級の子どもたち		
<p>○声をかけてもらい、ニコニコ顔で座り、クレヨンを動かし始めるが、すぐに「あっちいく」と言い出す。</p>	<p>○自分の描きたいものを、楽しそうに黙々と描いている。</p>	<p>○K子からの声かけは、Y子にとってうれしかったであろうが、「かきかきする」と望んだものの、いつもと違う様子に、座っても何をするのか分からず、すぐ「あっちいく」と言ったのであろう。</p>
Y子の興味を引くために 「Yちゃん見て、見て！さっきみんなでキノコのお歌うたったから先生、キノコ描いたんだよ」と問いかけ、描いて見せた。		
<p>○大好きなキノコの歌と聞き、注目し出す。 ○保育者の絵を見て、「ミカン！」大声で叫ぶ。</p>	<div data-bbox="587 1146 1125 1482" data-label="Image"> </div> <p>○Y子の声に顔をあげ、描いていた手が止まる子どもたち。Y子と保育者の二人のやりとりに注目し出す子もいる。</p>	<p>○注目し出したY子さらに集中させたいと思い、「これなーんだ」などと言って、Y子の好きなミカンを描く。 ○Y子以外の子どもたちも、興味を持ち始めている。お互いの関わりを深められる時と考えた。</p>
ミカンだけでなくいろいろな果物を描いていく。		
<p>○仲間の声を聞きまねて声を出す。 ○バナナを描くのを見て、初めて「Yもバナナ！」と言い、クレヨンを持ち描き出す。</p>	<p>○Y子が答える前に、「リンゴ」「ぶどう」と言い出し始める子もいる。</p>	<p>○描きながら見せるだけでなく、「カキ」と言葉がけをしながらY子の手を取って一緒に描いてやる。</p>
Y子と保育者とのやりとりを見て気持ちを動かされた子どもたち		

○「Yもぶどう」と言い、さらになぐり描きを続ける。

「Yちゃん、かきかき好きなんだね。そうだ！私もYちゃんの好きなぶどう描く。」と言い、描き出すA子。

○Y子の思いに自分を重ねたA子。

子どもたちの様子を見守ることにする

○「Yもメロン」と言い、クレヨンを動かす。

○A子とY子の姿を見たC男「ぼくはメロン」とY子に語りかけ、メロンの絵を描き出す。

○学級の子どもたちが、Y子に気持ちを向け始めた。

○「Yもリンゴ」とオウム返しで言いながらニコニコ顔をN子に向け、クレヨンを動かす。

○N子「リンゴだよ」とY子の方を向き描き始める。

○友だちをまねてみようとするY子の姿が、周りの子どもたちに広がっていく。

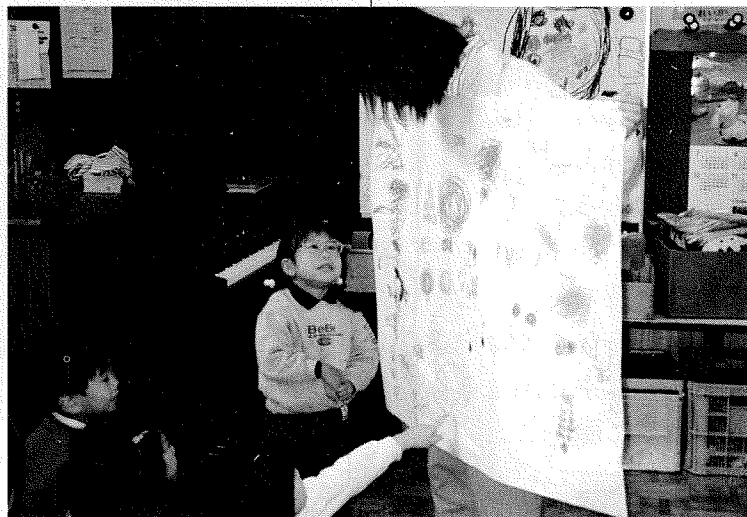
○C男「Yちゃんみたい、ぼくもいっぱい頑張ってるぞ」と意欲をみせる。

頑張るY子の姿を見て、受け入れていく子どもたち
自分も頑張ろうとするまわりの子どもたち

○ニコニコ顔で話す仲間を見て、自分もニコニコ顔で友だちをのぞき込む。

○Y子の描く姿を見て、「Yちゃんが好きそうなものを描くと、Yちゃんもいっぱい描いて楽しいね」「よかったね」「Yちゃんもいっぱい描けるんだね」と口々に言う子どもたち。

○気持ちのつながりをさらに感じる。



○仲間がY子に寄り添い楽しんでいくことが、Y子自身も喜びや楽しみにつながっていく。反面、Y子の経験が少ないことから興味の持続ができないため、今後はY子の経験を多くし興味関心を広げる必要を感じる。

仲間の言葉がけに、嬉しそうに応えることができるようになってきたY子
Y子の笑顔の姿を見て自分たちも喜び、楽しいと思えるようになった子どもたち

5 評価

【成果】

(1) Y子に望むつきたい力から

- 仲間とふれあう中で、相手の気持ちを考えながら、自分をどのように出していってよいかを、自分の体で少しずつ感じてきていると思われる。
- 自分が相手に受け入れられることにより、自分に自信を持っていくY子の姿が見られた。学級の中でのY子の位置がきちんとできつつあるように感じた。
- 仲間と共に、楽しい、うれしい、悲しいと言うような気持ちの表出が認められ、相手の気持ちを受け止めつつあることは、Y子の自尊感情の育ちにつながると思われる。

(2) 周りの子どもたちに望むつきたい力から

- Y子との関わり方を学ぶ中で、相手の気持ちを察したり思いやりの心が育ってきた。
- 少しずつ「お客さん」扱いから「同じ仲間」という意識や態度がでてきたことは、相手を偏見で見たり、固定概念で判断したりしないという意識が芽生えてきていることといえる。
- お互いが大切な人間であり、すばらしいものを持っていることに気づき始めている。

【課題】

(1) 障害のある幼児と共に生活する中でさらにつきたい力

- 障害のある幼児と共に生活するという事は、人間としての誇りや、尊厳について、具体的に学んでいけることである。そこで、今後以下の点についての成長を願いたい。
 - ア 相手の立場を考える態度
 - イ 相手の思いをより深く考えようとする姿勢
 - ウ 自分の心の中にある弱者に対する偏見や差別心の変容
 - エ ちがいを認め合える個や集団づくり
 - オ よさを認め合い、自尊感情を育む心

(2) 保育者（大人）が考えていきたいこと

- 保育者の「待ちの姿勢」を大切にしたい。障害のある幼児が将来自立できるように、保育者が支援することであるから、できることとできないことのある実態をふまえ、対応していきたい。できることについては、指示を少なく、本人の力でできるような配慮をしていきたい。
- 障害について、きちんと周囲の子どもたちに教えていきたい。気をつけたいことは、幼児には「かわいそうだ」でなく「自分と同じように、Y子らしく精いっぱい生きている」ということを理解させることである。
- 保育者自身が変わることが大切である。幼児同士の関係の中で相手の人権に関わる問題に対しては、決して許さない態度を持ちたい。（大人の人権感覚の育成）
- 保育者が障害のある幼児の気持ちを知らなくてはいけない。共に悩み、苦しみ、笑える人間関係をもとに、障害のある幼児に寄り添える保育者でありたい。

(3) これからのY子と学級の子どもたちに願うこと

- 「いけないことはいけない」、「いいことはいい」と、率直に認め合える子どもたちになってほしい。共に助け合える、支え合える仲間になってほしい。
- 自分の考えを素直に言え、それを心で聞き取れる子どもたちであってほしい。